

◆授業概要

Students will have the chance to listen to conversations and model them in various role play situations. Through such practices, students will exchange information and ideas with their peers. Students will be asked to hand in classwork from time to time.

◆学修到達目標

This course is aimed at giving students the tools and the opportunity to speak with other students in a friendly setting. We hope to build confidence in using English while discussing a wide range of topics.

◆授業方法

The teacher will provide a model conversation to be followed. Questions will be explained and example answers will be given for each question. Students will have the opportunity to practice tasks with various members of the class in large and small groups.

◆履修条件

This course is open to all students. The content is set at beginner levels and progresses to pre-intermediate. The course requires active participation.

◆成績評価基準

Class participation and in-class assignments (80%). 1 test (20%).

◆教科書

特になし

◆参考書

特になし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上で行う。

〔講座名〕	担当者名
-------	------

◆授業計画

・オンデマンド

授業内容	<p>Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences for each of the following topics:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Your Hometown 2. Employment 3. Family Ties 4. Our Friends
事前学修	Take a look at the topics of discussion. Take some notes and try to foreshadow and anticipate what information will be discussed.
事後学修	Try to incorporate some of the conversational strategies that you learned during the course and perhaps envision and create some role plays on how you can use follow up questions.

・対面授業

1日目	授業内容	Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences for each of the following topics: 5. Food For Thought , 6. Time And Money, 7. Staying Healthy, 8. Going Traveling, 9. Shop Til You Drop, 10. Music
2日目	授業内容	Listen to the conversation and check the best answers for 'a' and 'b'. Complete the questions in 'c'. Use full sentences for each of the following topics: 11. Sports Of Sorts, 12. Pets And Animals 13. Let's Watch 14. Reading, 15. Time For Holidays. There will be a review-style test that covers questions from each of the previous topics.
事前学修		Take a look at the topics of discussion. Take some notes and try to foreshadow and anticipate what information will be discussed.
事後学修		Try to incorporate some of the conversational strategies that you learned during the course and perhaps envision and create some role plays on how you can use follow up questions.

〔国際法〕

渡部 茂己

◆授業概要 「国際社会」を規律する法規範としての「国際法」は、どのような形で存在しているのか（法源）、どのようにして定立されるのか（立法）、もし守らない場合にはどのような制裁を受けるのか（適用・執行）、また、国際法主体としての国家や国際司法裁判所などの基本的な事項を学び、国内法や国際私法との違いを理解する。なお、昭和 61 年～63 年にかけて「総合研究開発機構（NIRA）」嘱託として勤務し、国際関係の研究に関わる『海外研究機関要覧』（単著）などを纏めた経験も反映する。

◆学修到達目標 「国際法」はどのような形で存在しているか（法源）、だれがどのようにして定立するのか、また、国際法の適用や執行について説明できる。そして、国際法主体としての国家や国際社会の裁判所について要点を説明できる。

◆授業方法

・オンデマンド

授業動画は内容に沿って分割し、番号等を付している。番号順に全体を視聴し、難しかった箇所は教科書を読みつつ、重点的に繰り返し視聴するとよい。それでも理解できない点については質問すること。

動画には課題が含まれている場合がある（その場合には明示する）。

・対面授業

教科書とパワーポイントを用いた講義を中心に、課題についての小論作成、討議も併用する。

（提出された小論は時間的に可能であれば返却する。）

国際裁判の内容やプロセスについて、視聴覚教材を参考として用いる。

◆履修条件 令和2年度東京スクーリング「国際法」（渡部茂己）との積み重ね不可。

◆教科書 通材 『科目名 K31100』 通信教育教材（教材コード 000462）『国際法』

（市販の『国際法・第3版』渡部茂己・喜多義人編（弘文堂、2018年、第2刷り 2021年）と同じ。）

◆参考書

◆成績評価基準 オンデマンド授業および対面授業内で出される課題についての数回の小論の合計（全体の 50%）、対面授業の最後にまとめる授業内レポート（全体の 50%）。オンデマンド授業の場合、課題の提出が出席を兼ねる。

◆授業相談（連絡先）: watanabe@tokiwa.ac.jp

◆授業計画〔各 90 分〕

・オンデマンド

授業内容	■国際法と国際私法、国際法の起源と国際私法の起源 ■国際法の意義・基本原理と諸分野、国際社会の特質、国内社会（の法）との違い ■国際法と国家Ⅰ（国家の成立、国家承認の理論と実際の事例） ■国際法と国家Ⅱ（国家の国際交渉機関、国家の国際責任） ■国家の領域、海洋法
事前学修	教科書第1章および第3章～第7章を読み理解する。
事後学修	授業内容を復習し、理解を深める。課題を完成させ、提出する。

・対面授業

1日目	授業内容	■国際法の法源（形式的法源と実質的法源、条約と国際慣習法） ■国際公域の国際法・国際海底機構 ■国際公域の国際法・宇宙法 ■国際紛争の平和的解決の諸手段（国際司法裁判所に関する視聴覚教材を含む） ■国際安全保障
2日目	授業内容	■国際安全保障に関する視聴覚教材（予定） ■国際法と個人・基本的人権の国際的保護 ■国際法と女性の地位・UPR（普遍的定期的レビュー） ■難民・人の移動と国際法・先住民族と国際法 ■国際法と地球環境 ■国際法と国際経済
事前学修		教科書の該当箇所（7章、14章、15章、9章、10章、11章→授業順序に即した該当章）を読み、それぞれの概要を確認する。
事後学修		授業終了後に授業内容と教科書を振り返り、理解を深める。

〔国文学概論〕

近藤 健史

◆授業概要 通信教育部の1・2号館は、千代田区九段南に、3号館は五番町にある。この付近の千代田区番町麹町周辺は、江戸の旗本屋敷の面影がわずかながら残っている。この辺りには、かつて文人たちが多く住んでいた。この講義では、指定教科書に登場する主な「文人」スポットと関連のある作家、作品、文学的背景などについて概説する。また、校外学修として歴史と文化を感じながら「文人たちのまち」を歩くことを予定している。

◆学修到達目標 国文学のさまざまなジャンルの作家や作品に触れ、それぞれの文学観を身につけることを目標にする。また、そこから各自が個々の作品と向かいあつたとき、作品の読解力や国文学に対する理解を深めるようになる。

◆授業方法

・オンデマンド

指定教科書や映像を利用して講義形式で行う。

・対面授業

指定教科書、映像、プリントを用意して講義形式で行う。また校外学修として「四谷駅→二七通り→番町学園通り」をコースを歩き作品の理解を深める。

◆履修条件 令和2年度東京スクーリング（5月期）「国文学概論」（近藤健史）とは積み重ね不可。

◆教科書 〔丸沼〕『文人たちのまち 番町麹町』新井巖 言視舎.2019年

◆参考書 教科書の巻末に「主な参考文献」が記載されている。

ネットで検索し「現代番町麹町絵図」のイラストマップをダウンロードできる。

◆成績評価基準 試験 80%、授業参画度 20%

◆授業相談（連絡先）：Classroom上にて行う

◆授業計画〔各90分〕

・オンデマンド

授業内容	1、「国文学概論」、「文人のまち番町麹町」について。2、有島家をめぐる「白権派」の文人たち。3、番町時代の泉鏡花。4、島崎藤村と「明治女学校」。5、番町で産声をあげた武者小路実篤と女たち。6、麹町と樋口一葉。7、「明星」創刊の地・番町。8、番町麹町界隈の詩人・歌人・俳人。9、番町界隈で過ごした放蕩無頼の文人たち。10、国木田独歩の恋と番町麹町界隈。以上について講義する。
事前学修	1、御屋敷町・文人通りという土地柄について調べておくこと。2、有島3兄弟と「白権派」について調べておくこと。3、泉鏡花、島崎藤村、武者小路実篤、樋口一葉、与謝野鉄幹、与謝野晶子の文学活動について調べておくこと。4、蒲原有明、高浜虚子、島木赤彦、吉井勇の詩人・歌人・俳人たちについて調べておくこと。5、永井荷風、国木田独歩の文学活動について調べておくこと。
事後学修	番町・麹町に住んでいた文人と作品、文人たちとの交流関係を確認し、番町麹町が「文人のまち」と呼ばれたことを理解する。

・対面授業

1日目	授業内容	1、吉行エイスケと内田百闘の見た番町。2、岡本綺堂の描いた番町麹町の風景。3、番町を愛した作家たち。4、気骨ある言論人たちの住んだ町。以上について講義する。
2日目	授業内容	1、先進的な女性を多数輩出した「明治女学校」とその卒業生について講義する。2、校外学修として、「まちの記憶」保存プレートを見つけながら「文人たちのまち」を歩き、理解を深める。
事前学修		以下の作家の文学的活動を調べておくこと。1、吉行家の作家たち。2、内田百闘。3、平塚らいとう。4、明治期の先進的な女性たち。
事後学修		それぞれの文人たちの作品と文学活動を確認する。また、関連する作品を読むことで理解を深める。

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔新聞英語〕

桑山 啓子

◆授業概要 インターネット等の普及で現在は世界中の新聞を読むことが出来るようになった。その国で起きたこと、その国民の思想など、色々な情報をネット配信や紙面の新聞から得ることが出来る。
英語で書かれた新聞記事の構成、英文の読み方などを学ぶ。

◆学修到達目標 英語で書かれた新聞記事を見て、記事の構成（Headline, Lead, Body）を判断できる。英文の記事全体の内容を日本語で説明することが出来る。明らかに新聞英語の特徴となっているところを指摘することが出来る。

◆授業方法

・オンデマンド

動画を配信して、その中でテキストの英文の解説、Exercises の解答と解説を行う。テキストを見ながら動画の説明を聴き、わからないところは動画を繰り返して視聴する。動画と課題の配信はオンラインの Google classroom で行う。課題の授受も Google classroom で行う。Google classroom に課題が設置してある場合は課題に取り組んで提出する。テキストは1回90分授業と考えてUnitを1つ終わらせる。

・対面授業

対面授業を受ける前にオンデマンドで配信した動画を全て視聴すること、課題も期限内に提出すること。

対面授業では、最初に新聞記事の英文の音声をCDで聴く。その後で学生さんたち一人一人が新聞記事の英文を音読して和訳する。次に教師が新聞記事の英文で重要な点とExercisesの解説を行う。テキストは1回90分授業と考えてUnitを1つ終わらせる。

◆履修条件 なし

◆教科書 丸沼『Meet the World 2121』若有保彦 成美堂

◆参考書

◆成績評価基準 対面授業最終日の最後の1時間で試験を行う。(50%) Google classroom に掲載された課題は全て提出すること。(30%) そして対面授業の時に一人1回ずつテキストの英文について和訳や解説などの発表をしてもらう。(20%) オンデマンド授業と対面授業の両方に全て出席していることを前提として評価する。オンデマンド授業では動画の視聴と課題の期限内の提出で出席とする。

◆授業相談（連絡先）：質問や連絡はメールか Google classroom のコメントでお願いします。メールアドレスは
Kuwayama.keiko2020@nihon-u.ac.jp です。
1日1回は確認する予定ですが、他大学、他学部の授業の合間にメールを確認するため、時間指定が出来ません。時間がかかることがあります、必ず返信はしますのでお待ちください。

◆授業計画〔各90分〕

・オンデマンド

授業内容	1回の授業でテキストのUnit1つを終わらせる。動画と課題は1回の授業ごとに分けて5回分配する。 (第1回) Unit 1: reading, While reading 1, 3, 5 (第2回) Unit 2: reading, While reading 1, 3, 5 (第3回) Unit 3: reading, While reading 1, 3, 5 (第4回) Unit 4: reading, While reading 1, 3, 5 (第4回) Unit 4: reading, While reading 1, 3, 5
事前学修	テキストのreadingの英文はわからない語を辞書で調べて、英文全体の内容をとらえたうえで、わからない部分を抜き出して和訳する。本文を読んだらWhile reading 1, 3, 5の問題を解く。
事後学修	動画を視聴した後で、英文の説明やExercisesの解答と解説を聴いて、自分が事前学修で作った解答を合わせて間違えたところを復習する。

・対面授業

1日目	授業内容	(午前) ① Unit 6: reading, While reading 1, 3, 5 ② Unit 7: reading, While reading 1, 3, 5 (午後) ③ Unit 8: reading, While reading 1, 3, 5 ④ Unit 9: reading, While reading 1, 3, 5 ⑤復習
2日目	授業内容	(午前) ① Unit 10: reading, While reading 1, 3, 5 ② Unit 11: reading, While reading 1, 3, 5 (午後) ③ Unit 12: reading, While reading 1, 3, 5 ④復習及び試験勉強 ⑤試験
事前学修		2日間でUnit 6 - 12まで読むので対面授業が始まるまでに予め読んでおくこと。わからない語を辞書で調べて、意味を理解できない英文は和訳しておくこと。本文を読み終えたらExercisesの問題を解く。
事後学修		授業で解説などを聴いて、本文の英文を解釈違いしていたところやExerciseの答えを間違えたところをよく復習すること。覚えていない重要な語（句）を覚える。

〔英語学演習 I ~ III〕

真野 一雄

◆授業概要 時制と相について概観し、現在時制、過去時制の意味機能について、時と時制が言語表現とどのようにかかわっているか、広い視点で理解できることを心掛ける。

◆学修到達目標 現在時制、過去時制の意味機能について考察することにより、基本的知識から専門的知識まで幅広く修得し、説明できるようになる。

◆授業方法

・オンデマンド

授業動画は内容にそって分割し、番号を付している。まずは、全体を順に視聴すること。一度の視聴で分からなかった内容の動画は重点的に繰り返して視聴すること。それでも不明な点についての質問は隨時受け付ける。現在時制、過去時制の意味機能について、テキストを理解し、要点を整理し、問題点を解決していく。なお、課題がある場合は、STREAM で行う。

・対面授業

オンデマンド同様、現在時制、過去時制の意味機能について、テキストを理解し、要点を整理し、問題点を解決していく。オンデマンド授業で提示された動画は必ず視聴していること。パラグラフの分析を行い、その分析を踏まえながら説明を加える。内容の要約を皆さんのが作成し、テキストの理解を深める。英語という言語の時制システムについての知識を深める。

◆履修条件 なし

◆教科書 丸沼 吉良文孝『ことばを彩る 1 テンス・アスペクト』研究社

◆参考書 丸沼 柏野健次『テンスとアスペクトの語法』(開拓社叢書) 開拓社

丸沼 田中江扶、本田謙介、畠山雄二『時制と相』(ネイティブ英文法) 朝倉書店

丸沼 宗宮喜代子、糸川健、野元裕樹『動詞の「時制」がよくわかる英文法談義』大修館書店

◆成績評価基準 試験を中心に受講状況その他を加味して評価の予定。

◆授業相談（連絡先）：Google Classroom のストリームでご質問下さい。

◆授業計画〔各 90 分〕

・オンデマンド

授業内容	第1章「時と時制と相」 1.1 時と相 1.2 時の3区分と時制 1.3 時制と相のパラダイム 第2章「単純現在時制の意味機能」 2.1 断定性の緩和と矛盾文 2.2 モーダル文と現在時制文（非モーダル文）
事前学修	第1章「時と時制と相」では、テキスト p. 2-p. 11 を読み、問題点を整理しておく。 第2章「単純現在時制の意味機能」では、テキスト p. 12-p. 18 を読み、問題点を整理しておく。
事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。

・対面授業

1日目	授業内容	第2章「単純現在時制の意味機能」 2.3 定言的断定文とモーダル文の確信度 2.4 確信度の立場から見た単純現在時制のメカニズム 2.5 名詞節における現在時制文とモーダル文 2.6 条件節における現在時制（非モーダル文）と認識的 will 2.7 条件文帰結節における will と be going to の意味機能
2日目	授業内容	第3章「過去時制の意味機能」 3.1 過去時制の中核的意味 3.2 過去時制の基本用法 3.3 推意と推意のキャンセル 3.4 話し手の態度を表す過去時制（丁寧用法） 3.5 過去時制による事態の生起順序 及び、試験とその解説
事前学修		第2章「単純現在時制の意味機能」では、テキスト p. 19-p. 100 を読み、問題点を整理しておく。 第3章「過去時制の意味機能」では、テキスト p. 101-p. 126 を読み、問題点を整理しておく。 試験に対しては1章～3章の総復習をしておく。
事後学修		学修内容をまとめ、理解を深めておく。1章～3章のまとめをし、理解を完璧にする。試験で間違えたところは、なぜ間違えるのかよく考える。

〔哲学概論〕

齋藤 隆

◆授業概要 今回のスクーリングでは西洋思想史における古代哲学と中世哲学の概要の理解を目指す。人類の登場から哲学の誕生に至る過程を理解する。ミュートスからロゴスへの移行の展開を把握する。具体例として日本神話、北欧神話を取り上げる。世界における哲学の三つの伝統を確認し古代ギリシアに始まる哲学の展開を理解する。その後でキリスト教と中世哲学の展開を理解し、ヨーロッパ文明形成におけるヘレニズムトヘブライズムの主導的役割の理解を目指す。

◆学修到達目標 ミュートスからロゴスへの移行の展開を把握し、その世界史的な意義を理解する。古代ギリシア哲学の展開とキリスト教の影響を色濃く受けた中世哲学の展開の把握を目指す。そしてヨーロッパ精神文明形成に果たしたギリシア思想とキリスト教の役割を理解し、それを第三者に説明できるようにする。

◆授業方法

・オンデマンド

授業動画は内容に沿って分割し番号を付している。まず番号順に従って一度全体を概観すること。一度の視聴で理解できないところはチェックをし、そこを含んだ番号動画を繰り返し視聴するように。それでも理解できないところや疑問点などは対面授業の時に質問するように。Classroom の指示に従ってください。

・対面授業

第一日目の時にまず皆さんの質問を受けることから始めます。その後で動画番号順に従ってテキストと添付資料を用いてより詳しい理解ができるように講義する予定です。第二日目に課題にこたえてもらいそれをもとに最終的な評価をする予定です。

◆履修条件 令和2年度東京スクーリング（5月期）『哲学概論』とは積み重ね不可

◆教科書 **通材**『哲学』（『西洋思想の要諦周覧』）

資料配布（Classroom） file を classroom に添付する。

◆参考書

◆成績評価基準 対面授業への全出席を前提にし、オンデマンド授業の視聴を確認したうえで、最終日に提出してもらうレポートを中心に総合的に評価する。個人的事情については相談に応じる。

◆授業相談（連絡先）：classroom 上にて行う。

◆授業計画〔各 90 分〕

・オンデマンド

授業内容	授業動画 1 ー人類の登場から哲学の誕生に至る過程 file を用いて説明する。 授業動画 2 ー ミュートスからロゴスへの移行の展開を把握する。日本神話名に言及。 授業動画 3 ー ソクラテス以前の哲学者たちの思想を説明する。 授業動画 4 ー ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想を概観する。 授業動画 5 ー 中世哲学の展開を概観する。
事前学修	授業動画ごとの内容に関連するテキストと添付資料の当該箇所を 2~3 回読みしておく。Classroom にその箇所を明記しておく。理解できない箇所があればそれをチェックし、その内容を含む授業動画を繰り返し見る。対面授業の折に質問する準備をしておくように。
事後学修	テキストや添付資料を読み込むこと。哲学の内容は分かったようでわからない箇所が多いので繰り返し読みこむ努力をするように。大まかな思想史の流れを念頭に置いて、取り上げた思想家、哲学者の思想的特徴を表す表現を記憶するよう努力すること。

・対面授業

1日目	授業内容	オンデマンド授業の視聴内容で理解できなかったところについての質問に答えることから始める。古代哲学で重要な二大哲学者プラトンとアリストテレスの思想を詳細に取り扱う。次に古代哲学の総決算といわれる新プラトン派の思想を取り上げる。キリスト教について基本的知識の確認を行う。
2日目	授業内容	新プラトン派から展開される中世哲学の二つの系統を、即ち正統的流れと神秘主義の流れを取り上げる。その中の重要な思想家はいうまでもなくアウグスティヌスとトマス・アクィナスである。
事前学修		classroom に指示を出すので、それに従って授業で取り上げる思想家、哲学者の思想に関連する箇所を、テキストと添付資料で確認しよく読み込んでおくこと。添付資料は必ず紙媒体にして手元に置いておくように。
事後学修		授業で扱った思想家、哲学者について、その大まかな思想史上の位置づけを念頭に置きながら、その人物の思想的特徴を表す表現を理解し、第三者に説明できるようにしておく。

◆授業概要

経済地理学は、地表面上のあらゆる経済現象の地理的な広がりを対象とする学問である。本授業では、地理学の基本的な考え方を概観した上で、経済地理学の課題と方法について理解を深める。また、特定の産業や地域を事例に、経済現象の地理的な差異が生じる要因について解説する。

◆学修到達目標

経済地理学の研究領域について理解を深め、経済現象の地域差の要因について説明することができる。

地理学的観点に立ち、地域の特徴を説明することができるようになる。

◆授業方法

・オンデマンド

オンデマンド授業動画により実施する。動画は、いくつかのファイルに分割するので、視聴の合間にノートを整理したり、不明点を調べたりすること。質問等は、Google Classroomにて受け付け、適宜回答する。

・対面授業

プレゼンテーションソフトを用いた講義形式で進める。理解度を確認するために、小レポートや小テストを実施する。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

試験の結果（50%）、授業内レポートおよび小テスト（30%）、授業への参画度（20%）

◆教科書

なし

◆参考書

資料配布（Classroom）必要に応じて、適宜配布する。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上にて行う。

◆授業計画

・オンデマンド

授業内容	ガイダンスとして、授業方法や課題について説明した上で、地理学の基本的な考え方を説明する。そして経済地理学に関わる諸分野について紹介し、経済地理学がどのような学問分野なのかを解説する。 動画は、受講者の負担を考慮し、いくつかに分割して配信する。動画には番号をつけて掲示するので、順番に視聴すること。また、視聴の合間に、ノートを整理することを勧める。
事前学修	・シラバスをよく読み、授業の概要や目的などを理解しておく。 ・「地理学」、「人文地理学」、「経済地理学」について、それぞれの意味を調べておくこと。
事後学修	・授業中に説明した内容を理解できるようにまとめておくこと。 ・不明点について、その意味を十分に調べておくこと。

・対面授業

1 日 目	授業内容	経済地理学の課題と方法を説明した上で、産業と地域社会の関係について説明する。 授業中に提示する地域問題について受講生一人一人に考えてもらう。
2 日 目	授業内容	観光政策と地域の活性化について説明した上で、具体的な事例地域を取り上げながら、現代の日本が直面する課題を紹介する。 授業中に提示する地域問題について受講生一人一人に考えてもらう。
事前学修		*事前学修は、対面1日目の前までに行うことを想定している。
事後学修		*事後学修は、対面2日目を終えた後に行うことを想定している。 *対面1日目終了後の事後学修は負担が大きいと考えられるので、ノートの振り返りなどに留めて構わない。 ・授業で解説した内容について、整理したり要約したりして理解を深めること。